

2026年3月期 決算説明会 質疑応答(サマリー)  
(2026年5月21日開催)

【当社側説明者】

代表取締役 社長執行役員 鈴木 弘英

【説明内容】

- ・2026年3月期 連結決算概況
- ・2027年3月期 通期連結業績予想
- ・成長戦略について
- ・中期ビジョンについて

【質疑応答】

Q1	資本効率改善や強化にはまだ改善の余地があるものと思われるが、どのような施策によってPBRの改善を目指す方針なのか。
A	資本コストや資本効率といった考え方については、今後より一層、業務運営へ落とし込んでいく必要があると認識している。 売上や、受注を増やすといった事だけではなく、今後は、このような資本に関する施策を構築していく部門を充実させていくことで、改善を図っていきたい。
Q2	売上製品セグメントの構成比率により、2027年3月期の営業利益率については前年度比で改善されるものと思われるが、公表予想値は少し低くないか。
A	上振れする要素もあるが、下振れする要素もある(中東問題、人件費・原材料高等)、ヒト・モノへの投資も考慮して一部保守的に計画している。
Q3	2026年3月期ではアメリカで、値上げを行ったとのことだが、2027年3月期も更に値上げは可能なのか。また、2027年3月期の業績予想にはどのように折り込まれているのか。
A	2027年3月期については、値上げというより、大手を中心にボリュームでカバーする方向で考えている。

Q4	決算説明会資料 P22 において中国への取り組み(市場ポジション重視)が記載されているが、御社の高収益モデルと反するのでは。ポジションを固めた後のストーリーを教えてください。
A	中国市場は、モノづくりの世界の 3 割超を占め、コストの見方が非常に厳しい。当社のスタイルを押しすぎると、門戸が閉ざされてしまうリスクがある。単年で利益を獲得するのではなく、シェアを獲得する事で、数年にかけて利益を獲得していく方が向いていると考えている。

以上